

「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成」キックオフシンポジウム

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井関, 尚一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37769

『学会開催報告』

『第三の道:医療革新を専門とする医師の養成』
キックオフシンポジウム

Kickoff Symposium

“The third way: training of doctors to make
specialists of medical innovation”

金沢大学医薬保健研究域長 (事業推進責任者)

井 関 尚 一

3月6日(土)の14時～17時30分、大学病院宝ホールにおいて、平成25年度から5年間の予定で文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」として本学が採択された「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成」のキックオフシンポジウムを開催しました。本事業は、臨床現場でのニーズに基づいて最先端の研究を行なうとともに、他分野の研究者や企業等との密接な協力のもとに研究成果を実用化し、新しい医薬品、医療機器、診療技術等を世に送り出して医療革新を行なう医師を養成することを目的とし、そのような医師を、従来の臨床医、研究医に続く第三の道と名付けたものです。そのために学士課程、初期臨床研修、大学院を一貫したメディカル・イノベーションコースを用意しました。学士課程ではすでに動いているMRTプログラムと提携して、学生に研究マインドとグローバル力を涵養します。大学院においては、学生は医療革新に実績をもつイノベーション・コア講座と名付けた特定の講座(今年度は12)の指導のもとに研究を行ないつつ、必修単位としてメディカル・イノベーションプログラムと名付けた授業を受けます。これには研究成果を製品化、実用化するための教育(メディカル・イノベーションセミナー)、新規の医薬品や医療機器、診療技術について正しい評価、安全性確保を行なうための教育(レギュラトリーサイエンスセミナー)、実用英語を学んで世界で活躍するための教育(実践英語)という3本柱の講義、ならびに企業等との共同研究の演習や、国内外での研修が含まれます。この4月からすでに6つのコア講座において8人の大学院生がコースに参加しています。

キックオフシンポジウムには学内の教職員、大学院生、医学類生、学外の企業関係者ら約110人が出席しました。まず井関尚一医薬保健学研究域長が事業説明を行い、中村信一学長ならびに文部科学省の袖山禎之医学教育課長による御祝辞がありました。演題に入り、本事業のアドバイザーでもある本学出身で東京大学教授の松島綱治氏による「炎症・免疫基礎研究に基づく医療・創薬への貢献」と題する基調講演(座長：山本健医学類長)に引き

続いて、6つのイノベーション・コア講座からの研究紹介講演がありました。演者名、講座名と題名は以下の通りです。坪本真(脳情報病態学)「統合失調症の認知機能障害とカリウムチャネル遺伝子KCNS3」、中嶋憲一(バイオトレーサ診療学)「医用画像処理ソフトウェア：共同開発研究から臨床応用まで」、中西千明(臓器機能制御学)「幹細胞の臨床応用：診断、解析および再生医療に向けて」、御簾博文(恒常性制御学)「ヘパトカイン測定法の開発研究」、井上啓(生体統御学)「中枢神経性・自律神経性肝糖代謝調節の分子メカニズムと応用」、竹内伸司(腫瘍内科)「遺伝子多型に起因する分子標的薬耐性の克服」。いずれも実用化を視野に置いた先端研究という本事業の趣旨にふさわしい内容でした。シンポジウム終了後にCPDセンターにおいて意見交換会が行なわれました。

このキックオフシンポジウムが参加者、特に医学類5年生にとって刺激となり、卒業後に大学に残って研究医となる人、メディカル・イノベーションコースを履修して医療革新を目指す人が増えることを願っています。本シンポジウムの企画遂行に当たっては、事業の実行組織である「プログラムマネジメント室」の絹谷清剛室長、米田隆特任准教授、2名の事務補佐員、また宝町地区事務部職員の皆様に多大のご尽力をいただいたことを感謝します。

